

来秋に 「信楽陶芸トリエンナーレ2010」開催

本番を前にイベント始まる

本市信楽地域は、古くから陶器の産地として栄えてきました。来年の秋には、このまちを舞台に市の特産品「信楽焼」を世界に発信する国際芸術祭「信楽陶芸トリエンナーレ2010」が行われます。

トリエンナーレのイベントとして、今年4月から、若手陶芸家や窯元によるまちなか周遊イベントが始まっています。これから夏にかけて焼き物のまちがアートで彩られます。

▼静かにたたずむ登り窯がギャラリーに

まちなか
まるごと
美術館に



▲布地を使って登り窯全体をアート空間にした宇野さん

作品とのコラボで登り窯に命を

テキスタイル作家 ^{うのひろみ} 宇野裕美さん(草津市)

ACTでの出展は初めてですが、訪れる人が興味を持って中に入ってくださり、まち全体にアートが根付いている気がします。私の作品が、かつて活躍していた窯に再び命を吹き込むことができればと思います。

4月3日(金)から6日(月)には、窯元散策路の古民家、古窯、商店街の空き店舗、銭湯などを活用した作品展示や工房見学、制作体験、手作りカフェやミニコンサートが行われました。作品を出展する作家や、観光に訪れた皆さんに、まちの魅力などをお聞きしました。

信楽ACT2009 窯元散策路の仲間たち展

まちなかに溶け込む作品を

陶芸作家 ^{みなかた まき} 南方麻希さん(京都市)

今回こちらにホームステイしながら、出展しました。ギャラリーとは違う、まちなかでの展示に合った作品を意識しました。信楽は初めてですが人情味あふれ、とても居心地がいいですね。来年のトリエンナーレにも協力したいと思います。



▲「心臓」をモチーフにした作品を展示する南方さん(左)と県外から訪れた高橋さん(中央)・富田さん(右)

何度も訪れたいくなる 楽しい仕掛けがいっぱい

^{たかはしなおこ} 高橋直子さん(岐阜市)
^{とみたたまこ} 富田妙子さん(名古屋市)

信楽はのどかで落ち着きます。楽しいイベントが多く、周遊したくなる工夫がされています。普段は窯を見る機会もないし、作家さんと話せるのもいいですね。来秋のトリエンナーレにも、ぜひ訪れたいです。

**春の信楽・
アートな歩き方**
開催中〜5月10日(日)

地域に点在するギャラリー、クラフトショップ、陶芸家の工房、レストランやカフェなど、アートをテーマにそれぞれが特別なおもてなしをお迎えます。現在開催中ですので、ぜひお出かけください。



▲道路の陶板を道標に巡る窯元散策路

▼古民家を利用したカフェ



まちなかアート 2009

7月24日(金)〜8月26日(水)

ギャラリーや公共施設、神社の境内など、まちなかのさまざまなスペースで作品展示を行い、まち全体を巨大なギャラリーとしてアートを楽しめる空間を作り出します。国内外のアーティストも出品参加し、地元高校生との交流事業やワークショップなども行う予定です。

トリエンナーレで甲賀市を世界へ発信

トリエンナーレは、市が認定を受けている経済振興特区事業のメイン事業として、平成22年10月1日(金)から11月23日(火・祝)までの54日間開催予定です。

県立陶芸の森や信楽伝統産業会館をはじめ、窯元などが点在するまち全体が会場となります。陶芸をテーマとしたさまざまな展示会や地域資源を活用したまちなか周遊イベントなど、まちをまるごと美術館にした芸術祭を計画しますので、ご期待ください。

焼き物のまちが一体となり
イベントで
気運高める

日本八古窯の一つに数えられ、世界的にも有名な信楽焼。市内には、信楽地域を中心に多くの陶芸作家が集まっています。

信楽地域の中でも特に、窯元が密集する窯元散策路エリアには、古い登り窯や煙突、陶器工場など懐かしい風景が今も残り、観光客を楽しませてくれます。

プレイベントでは、来秋開催の「信楽陶芸トリエンナーレ2010」よりひと足早く、陶芸のまちを国内外に発信し、来年に向けて地域全体の気運を高めます。

今、焼き物のまち信楽では、市民団体が中心となって、おもむきある町並みを活かしたイベントを開催中です。さまざまなジャンルの作家や地域の皆さんが、焼き物の産地ならではの仕掛けで訪れる人をおもてなしします。